【灯】　「続・カタカナことば」
＜2024/2/19 大分合同新聞掲載＞

以前、当コラムで外来語の話題を取り上げたところ、さまざまな反響を頂きましたので、言葉の話をもう一度。

中学生の頃、洗濯道具のアイロンと、ゴルフクラブのアイアンが、元々は同じｉｒｏｎという単語だと知って仰天しました。同じ「鉄」なのに、なぜカタカナにしたら別の呼び方になるのかと、今でもモヤモヤしています。同様に、バレーボールとテニスのボレーとサッカーのボレーシュートが同じｖｏｌｌｅｙ（ｂａｌｌ）だと知った時は衝撃が走りました。

外国人の方にとっても、外来語はハードルが高いと思います。言葉遊びのようですが、ハードルの「ドル」に他の文字をくっつけて別の言葉を作ってみると、ハンドル、コンドル、踊る、気取る、ドル箱、ドルフィンキック、土塁、希土類、ミドルシュート…これを習得するのは大変です。

擬音語と擬態語が多いのも日本語の特徴のようです。路面がカチコチでツルっと滑ってスッテンコロリン。日本語って便利ですね。でも、「チンする」で通じてしまってよいのかという気もします。

さて、ゴルフの世界では、ダフリやダボなど、外来語由来の奇妙な言葉が飛び交うようですが、実は擬音語交じりの和製ゴルフ用語があるんですよ。お知りになりたいですか？　聞かない方が良いかもしれませんが…怒らないでくださいね。「池ポチャ」なんですけど…。　（日本銀行大分支店長）